特別展「イタリアと日本の前衛 ―20 世紀の日伊交流」プレスリリース

どうして日本でイタリア美術？

展覧会について

イタリアと日本の美術交流は、イタリア作家が美術学校の教師として日本を訪れた明治時代に始まり、150 年以上続いています。本展では、西欧の作家に日本の作家が学ぶという構図を脱し、作家同士が対等なやりとりを実現していく 20 世紀に光を当て、現在まで日本国内に残るイタリア美術作品のルーツをたどります。

今日、日本に所蔵される 20 世紀イタリア美術作品は、どのような経緯でもらたされたのでしょうか。また当時、これらの作品が日本にもたらされた時、日本の人々は、どのように作品を見ていたのでしょうか。21 世紀の現在から、このように問いかけることで、当時のイタリアと日本の姿が浮かび上がってくることでしょう。

イタリアの未来派と東郷青児（とうごうせいじ）、神原泰（かんばらたい）とのやりとりに始まり、戦後イタリアを代表する作家ルーチョ・フォンタナと、戦後日本を代表する詩人で美術批評家の瀧口修造（たきぐちしゅうぞう）の親交、そしてそこからさらにほかの作家へと展開していく人間関係を紐解きながら、作品と資料約100 点を通して、今もなお日本に残るイタリア美術作品を見つめなおします。

出品作家

イタリア：ジャコモ・バッラ、ウンベルト・ボッチョーニ、ルーチョ・フォンタナ、ジュゼッペ・カポグロッシ、マリノ・マリーニ、ブルーノ・ムナーリ、エンリコ・カステッラーニ、エンツォ・マリ、グルッポ T ほか

日　本：東郷青児（とうごうせいじ）、神原泰（かんばらたい）、瀧口修造（たきぐちしゅうぞう）、阿部展也（あべのぶや）、豊福知徳（とよふくともの り）、吾妻兼治郎（あづまけんじろう）、山口勝弘（やまぐちかつひろ）、宮脇愛子（みやわきあいこ）、高橋秀（たかはししゅう）ほか

展覧会情報

展覧会名　特別展「イタリアと日本の前衛 ―20 世紀の日伊交流」
会　　場　ふくやま美術館 1階企画展示室（広島県福山市西町二丁目4番3号）
会　　期　2024 年 4 月 6 日（土）― 6 月 2 日（日）
開館時間　9:30 ―17:00 ※5 月 2 日（木）、3 日（金・祝）、4 日（土・祝）、5 日（日・祝）は 19:00 まで開館
休 館 日　月曜日　※4 月 29 日（月・祝）、30 日（火）、5 月 6 日（月・休）は開館、5 月 7 日（火）は休館
観 覧 料　一般 1,500 円（1,200 円）　※（　）内は前売りまたは有料 20 名以上の団体料金
主　　催　（公財）ふくやま芸術文化財団 ふくやま美術館、福山市、中国新聞備後本社
後　　援　外務省、駐日イタリア大使館、イタリア文化会館 - 大阪、（公財）日伊協会、広島日伊協会

お問い合わせ

ふくやま美術館 学芸課 小池久美子（広報）、筒井彩（担当学芸員・展覧会内容）
〒720-0067　広島県福山市西町二丁目 4 番 3 号
TEL：084-932-2445（学芸課直通）　FAX：084-932-2347
E-mail：art2@city.fukuyama.hiroshima.jp

FUKUYAMA MUSEUM OF ART
ふくやま美術館

見どころ

1．ふくやま美術館の特色のひとつ
「20 世紀イタリア美術コレクション」から日伊交流を振り返る！

当館では、100 点以上ものイタリア美術作品を所蔵しています。一部の作品は、1950～ 60 年代頃、さまざまな人の手を介して日本にもたらされました。本展では、主にこの時代に日本に渡った作品に着目し、当時の日本が切り取った 20 世紀イタリア美術を展観します。

2．国内の 20 世紀イタリア美術コレクションが福山に集結！

独自のネットワークによって新潟の美術館や地元企業が収集してきたコレクションをはじめ、全国各地のイタリア美術作品が、本展を機に福山へ集結します。新潟のコレクションが形成された背景には、同地出身の作家、画廊、コレクターが連携し、イタリアを含む国際的な作品を紹介しようという意気込みがありました。今日の目から見ても、こうした姿勢からは地方から日本全国、ひいては世界へ発信しようという強い意志が感じられるでしょう。

3．イタリアを通して戦後日本美術をたどる

戦後、海外への門戸が開かれる中で、作家個人同士の交流も行われます。日本からは、瀧口修造に始まり、彼を慕う若手作家たちがイタリアに渡っていきました。彼らの足跡からは、当時のイタリア美術に対する日本人の評価や、自らの「日本人」としてのアイデンティティを今一度見つめなおしていく様子をたどることができます。

4．貴重な資料が初公開！

当時のイタリアでは、作家同士が記念に自身の作品をプレゼントしあう習慣がありました。このことで日本作家の作品がイタリア作家に、イタリア作家の作品が日本作家の手元に残ることになります。本展では、今日に残るそれらの作品と、彼らが近況を伝える直筆の手紙など、初公開のものも含む貴重な資料を出展します。瀧口修造旧蔵のものを中心に、当時の交流関係を示す作品と資料を通して、作家の人物像がより鮮明に浮かび上がってくることでしょう。

章構成

第 1 章　はじめの一歩―イタリアと日本の未来派

日本とイタリアの同時代的な交流は、20 世紀になり日本からの海外渡航が可能になったことで実現します。最初の例として、本章では、1920 年代にイタリアで興った美術運動「未来派」を取り上げます。日本では、実際にイタリアに渡り未来派展に参加した東郷青児や、マリネッティと書簡のやりとりをした神原泰がいました。

展示予定作品

- ジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》1915 年、ふくやま美術館
- ウンベルト・ボッチョーニ《カフェの男の習作》1914 年、ふくやま美術館
- 東郷青児《帽子をかむった男（歩く女）》1922 年、名古屋市美術館
- 神原泰《ヴェルレーヌの「女と猫」》1923 年、大原美術館

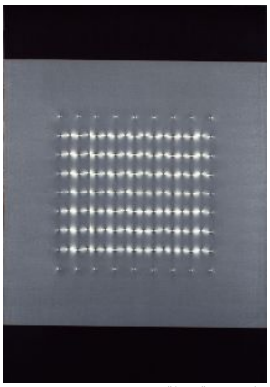
ジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》1915 年 ふくやま美術館

第 2 章　フォンタナと瀧口修造

第二次世界大戦後、より多くの人々が、観光や留学など様々な理由で日本からイタリアを訪れます。
詩人で美術批評家の瀧口修造もその一人で、ヨーロッパを巡り、イタリアの前衛作家のルーチョ・フォンタナやブルーノ・ムナーリらと個人的に親交を結びました。実際に、イタリアで作家のアトリエを日本作家が訪れることもあり、こうした交流の記念などに作品が贈られることもありました。

展示予定作品

- ルーチョ・フォンタナ《空間概念ー銀のヴェネツィア》1961 年、ふくやま美術館
- ジュゼッペ・カポグロッシ《表面 170》1955 年、ふくやま美術館
- エンリコ・カステッラーニ《無題》1964 年、新潟県立近代美術館・万代島美術館
- マリノ・マリーニ《騎手のための構想・習作》1955 年、新潟県立近代美術館・万代島美術館
- 宮脇愛子《作品》1960-61 年、東京都現代美術館
- 吾妻兼治郎《MU-766》1976 年、個人蔵



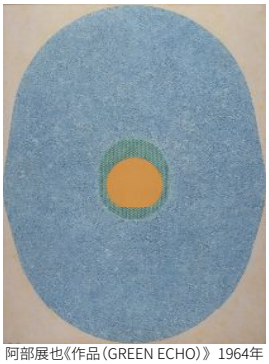
エンリコ・カステッラーニ《無題》1964 年
新潟県立近代美術館・万代島美術館

第 3 章　新潟にのこる空間主義

現在、新潟県内には、20 世紀イタリア美術の作品が多数所蔵されています。これは、新潟出身の作家・阿部展也と、東京画廊の画廊主 (当時)・山本孝、そして BSN 新潟放送や大光銀行といった地元企業の人々が、世界の美術を日本に伝えようと尽力したことによります。作家同士の交流とは、また少し異なる日伊交流の在り方を、本章では見つめ直します。

展示予定作品

- ルーチョ・フォンタナ《思考》1962 年、BSN 新潟放送（新潟市美術館寄託）
- マリオ・スキファノ《2-2B》1960 年、BSN 新潟放送（新潟市美術館寄託）
- ピエロ・ドラツィオ《意識》1960 年、BSN 新潟放送（新潟市美術館寄託）
- レモ・ビアンコ《作品》1952 年、BSN 新潟放送（新潟市美術館寄託）
- 阿部展也《作品（GREEN ECHO）》1964 年、BSN 新潟放送（新潟市美術館寄託）



阿部展也《作品（GREEN ECHO）》1964年
BSN新潟放送（新潟市美術館寄託）

第４章　来日した「動く芸術」

本章では、日本で展示を行ったイタリア作家を中心に取り上げます。とりわけ、「アルテ・プログランマータ」という前衛運動に参加したブルーノ・ムナーリとグルッポＴに焦点を当てます。彼らは「プログラムされた美術」を目指し、実際に動いたり、操作したりする作品を制作し、電気やモーターへも関心を寄せました。彼らは瀧口修造の協力によって、日本での展覧会を実現した数少ないイタリア作家となります。イタリアと日本の「動き」と「空間」、そして「光」に対する、作品を通したそれぞれの反応を見比べてみると、また違った側面が見えてくるかもしれません。

展示予定作品

- ブルーノ・ムナーリ《直接の映写》1959/1973 年、特定非営利活動法人市民の芸術活動推進委員会
- ブルーノ・ムナーリ《凹凸》1985 年、特定非営利活動法人市民の芸術活動推進委員会
- グラツィア・ヴァリスコ《マグネティック・タブロー》1961 年、多摩美術大学アートアーカイヴセンター
- 山口勝弘《C の関係》1965 年、東京都現代美術館
- マリオ・メルツ《加速・夢・まぼろし》1972/1998 年、東京都現代美術館

山口勝弘《Cの関係》1965年　東京都現代美術館
撮影：椎木静寧

関連プログラム

記念講演会

1．空間主義（Spazialismo）の「穴」と「光」
―フォンタナと日本の前衛

日時：4 月 6 日（土）14:00―15:30
講師：巖谷睦月（東北学院大学准教授）
会場：ふくやま美術館1階ホール
定員：100 名 ※聴講無料、当日先着順

2．「現代イタリア美術」いまむかし
―「現代」が「過去」になるとき

日時：5 月 5 日（日・祝）14:00―15:30
講師：筒井彩（ふくやま美術館学芸員）
会場：ふくやま美術館1階ホール
定員：100 名 ※聴講無料、当日先着順

ギャラリートーク

1．専門家によるギャラリートーク
「フォンタナを通して見る『イタリアと日本の前衛』展」

日時：4 月 7 日（日）14:00―15:00
講師：巖谷睦月（東北学院大学准教授）
会場：ふくやま美術館 1 階企画展示室
※参加無料、特別展観覧券が必要

2．学芸員によるギャラリートーク
「イタリア行ったりーあ！時空を超えてひとっとび」

日時：5 月 4 日（土・祝）17:00―18:00
　　5 月 26 日（日）14:00―15:00
会場：ふくやま美術館 1 階企画展示室
※各回参加費無料、特別展観覧券が必要

地域連携プログラム

イタリア映画特集

本展に合わせて、3 作品週替わりでイタリア映画を上映します。

場所：福山駅前シネマモード
上映日時：
4 月 26 日（金）―5 月　2 日（木）「丘の上の本屋さん」
5 月　3 日（金）―5 月　9 日（木）「帰れない山」
5 月 10 日（金）―5 月 16 日（木）「シチリア・サマー」

半券提示で相互割引も実施予定！

詳細はこちら

展覧会図録

『イタリアと日本の前衛―20 世紀の日伊交流』

執筆：巖谷睦月（東北学院大学）
太田岳人
筒井彩（ふくやま美術館）

発行：水声社

価格：3,300 円（税込）

ISBN 978-4-8010-0806-9

出品作品・資料の図版や専門家による日伊交流の解説など見どころ盛りだくさん!!

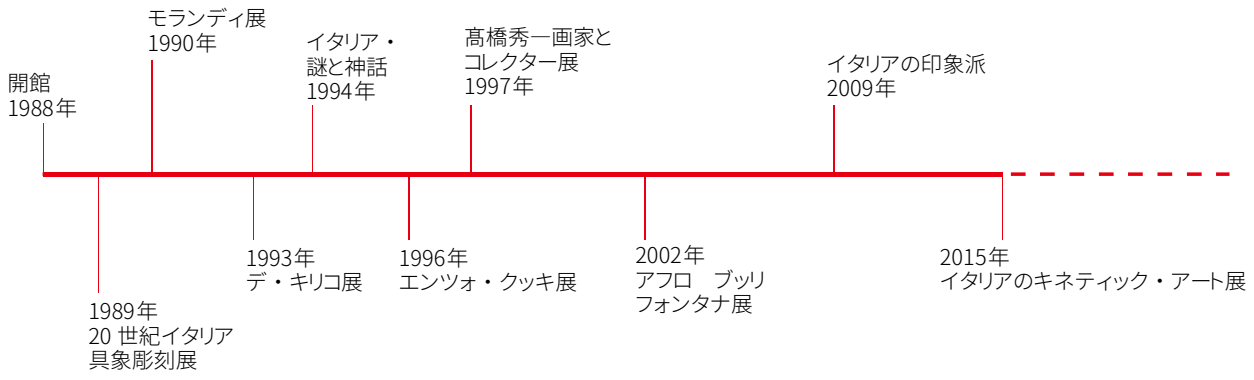
日本語で読める 20 世紀イタリア美術に関する 1 冊としても、オススメです。

購入はこちらから ▶ https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/2861.html
（4 月 6 日より販売開始予定）

美術館について

ふくやま美術館は、1988 年 11 月 3 日に広島県福山市に開館した美術館です。所蔵品は近現代の美術作品から茶道具・刀剣まで多岐にわたり、約 3,300 点以上をコレクションしています。
取集方針は 4 つの柱からなり、福山市・府中市・神石高原町の郷土作家の作品、瀬戸内圏関連作家の作品、日本の近・現代美術の作品、そしてイタリアを中心とする近・現代ヨーロッパ美術の作品を中心に所蔵しています。
日本でイタリア美術を特色とする美術館は非常に限られていますが、当館は、高橋秀、杭谷一東といった福山ゆかりの作家がイタリアを拠点に活動していたこと、地中海と瀬戸内の気候が似ていることなどを理由に、コレクションの核のひとつにイタリアを据えました。
福山城の西堀（堀跡）に建てられた美術館の2 階からは、近年リニューアルを終えた福山城を眺めることもできます。新幹線も停まる駅から徒歩 5 分の好立地、ぜひ気軽にお立ち寄りください。

過去のふくやま美術館で開催したイタリア美術展



※過去の展覧会カタログはこちらから購入可能です。▶ https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/2861.html